

(株) Mujin
営業本部 F A 営業部 統括

阿部 翔太 氏



(株) Mujin (東京都江東区辰巳3-8-5) は、独自のロボットコントローラー技術を核にした知能ロボットソリューションを提供している。産業用ロボットに「知能」を与え、複雑なプログラミング作業を必要とせずロボットを動作させることができ、幅広い製造・物流現場で採用され、知能ロボットのバイオフィアとしての地位を築いている。今回、営業本部 F A 営業部統括の阿部翔太氏に話を伺った。

—— 直近の動向から伺います。
阿部 当社の知能ロボットは、主に F A 関連と物流関連で展開しており、直近は両分野で採用

が拡大している。伸び率としては物流向けの方が高く、一例としては(株)日立物流様とともに、世界

ンテナ投入作業を自動化した。そのほか、物流向けでは1カ所で10〜20台を採用いたただくケースも増えており、ロボットの

部品などを手がける(株)ヌカベ様が、ばら積み状態のナックルアーム粗材をビックキングし、コンベアへ投入する作業、粗材の表裏判定を行い必要に応じて反転する作業、粗材を加工ラインへ投入する作業を自動化した。

トソリューションパッケージ「Mujin Robot」シリーズをリリースした。これまではお客様ごとのシステム構築していたが、重量品の荷下ろしを自動化する「Mujin Robot デパレタイザー」、重量品の積み付けを自動化し、かご車・パレット・カートラックへの積み付けにも対応する「Mujin

また、さらなる海外展開として、21年5月に米アトランタでグループ会社の「Mujin Corp.」を設立した。米アトランタで3月末に開催された世



阿部 従来ロボットの活用には専門的なノウハウが必要であったが、知能化技術の進展により、誰でも活用いただけるものになってきたと考えており、22年は様々な業種で広がりを見せる段階になるとみている。当社への引き合いも増えており、経済性、安定性、生産性の向上といった成果も感じていただいている。その流れをさらに加速させ、22年は事業規模を前年比2倍にすることを目指していく。6月30日〜7月2日に愛知県国際展示場で開催される「ROBOT TECHNOLOGY JAPAN 2022」などにも出展する予定であり、そういった場を通じて色々なお話をさせていただき、新たな製造・物流現場のみなさまをお客様やパートナー企業とともに創出していきたいと思う。

知能ロボの採用が国内外で拡大

22年は事業規模2倍を目標

的スポーツシューズメーカーの商品を扱う千葉県物流センターに知能ロボットを導入し、シューズボックスを仕分けシステムへ供給する作業を自動化した。また、化粧品・健康食品メーカーの(株)ファンケル様が大阪府門真市に新設した「ファンケル 関西物流センター」にて、(株)タイフク様の下で知能ロボットを稼働させ、パレットからの荷下ろしとピース品のコ

導入を前提とした物流施設も増えている。
—— F A 関連での引き合いは。
阿部 当社のロボットを活用し、ばら積みビックキングやマシンテンディングなどを自動化する取り組みが増え、アイイーやティエも含めた自動車関連を中心に、新規のお客様だけでなく、リピートオーダーも増えている。
一例としては、自動車

—— 開発面での取り組みは。
阿部 当社では知能ロボットシステムとAGVを組み合わせて提供する取り組みも強化しており、物流向けと F A 向けの両方で採用が増えている。また、21年に、独自のコントローラー、ビジョン、ハンドなどをパッケージ化した知能ロボッ

in Robot デパレタイザー」、ピース品のビックキング・仕分け・ソータ投入を自動化する「Mujin Robot ピースピッカー」といったパッケージ製品を構築することで、導入までの期間を短くするとともに、コストパフォーマンスを高めた。

—— エレクトロニクス業界向けの取り組みについて。
阿部 当社は、産業用の知能ロボットコントローラーを軸に、ばら積み

又カベで稼働している知能ロボット

業界の物流業界向け展示会「MODEX 2022」などへの出展を通じて、米国でも多くの引き合いをすでにいただいている。
—— エレクトロニクス業界向けの取り組みについて。
阿部 当社は、産業用の知能ロボットコントローラーを軸に、ばら積み

聞き手・副編集長 浮島哲志